

令和 4 年 2 月 28 日

教 育 長 様

研究コース	
グループ研究 A	
校園コード（代表者校園の市費コード）	
671480	
選定番号	123

代表者 校園名： 大阪市立北鶴橋小学校  
 校園長名： 光井 栄雄  
 電 話： 06-6741-6706  
 事務職員名： 服部 朋美  
 申請者 校園名： 大阪市立北鶴橋小学校  
 職名・名前： 校長・光井 栄雄  
 電 話： 06-6741-6706

## 令和3年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇令和3年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	グループ研究 A	研究年数	新規研究（1年目）
2	研究テーマ		個性を輝かせ、Society5.0を生き抜く児童の育成 ～すべての児童がいきいきと学ぶ学校をめざして～		
3	研究目的		○発達障がいなどの個性を持つ児童の学ぶ力の育成 ○外国にルーツを持つ児童のアイデンティティを生かした国際社会を生き抜く児童の育成 ○コグトレ等、個の課題を緩和する先駆的学習支援方法について研究を深め、今日的課題である合理的配慮を含めた、個に応じた学習支援のスキルを高める。 ○70年の歴史をもつ国際クラブの実践を活かし、自他のアイデンティティを尊重し、多様性を受け入れるグローバル人材の育成に広げる。		
4	取り組んだ研究内容		いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。 (MSゴシック 9.5pt イント) 5月 教員・児童へのアンケート（事前アンケート）作成・実施・分析。 校内研修を行い、国際理解教育リーダーと特別支援教育リーダーを立て、それぞれが中心となってエキスパートグループを作り、研究プログラムのプランを立てる。(Plan) 5～7月 研究プログラムに沿って、総合的な学習の時間や朝の学習時間などを使って実践を行う。(Do) 7月 各リーダーをもとに実践の記録を取り、取り組みを振り返りを行う。(Check) 振り返りをもとに研修計画の改善を行う。(ACT) 8月 プロジェクトリーダーが外部研修参加し、コーディネートスキルを高める。 プロジェクトリーダーを中心に特別支援教育研修会、国際理解教育研修会を行う。 伝達研修と各エキスパートグループの学びの共有 9～12月 研究プログラムに沿って、総合的な学習の時間や朝の学習時間などを使って実践を行う。(Do) 11月 国際理解学習発表会を行う 12月 各リーダーをもとに実践の記録を取り、取り組みを振り返りを行う。(Check) 振り返りをもとに研修計画の改善を行う。(ACT) 1月 校内研究会（兼TEAMSを活用したオンライン研究会）を行う。 （職員・参加者アンケート） 2月 教員・児童アンケート（事後アンケート）の実施 事前アンケートとの比較分析・結果の考察		

		研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。							
5 研究発表等の日程・場所・参加者数	日程	令和4年1月28日	参加者数	約32名					
	場所	本校多目的室（本校教職員）・Teamsを使ったオンライン開催（他校教職員）							
	備考	他校参加者は22名							
大阪市教育振興基本計画に示されている、子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上および教員の資質や指導力の向上について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。									
<p><b>【見込まれる成果1】</b></p> <p>○コグトレ等、認知トレーニングなど、課題を抱える児童の学習に効果があるとされている実践について自分の実践にも生かすことができる人材を育てる</p> <p>《検証方法》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員アンケートの「コグトレについて理解し、実践に生かすことができますか」とい質問の事後アンケートにおいて、効果的な回答の割合を事前アンケートより高める。</li> </ul> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>外部研修会に参加した教員による伝達講習や実技研修会、外部講師を招聘した研修会を行うことにより、「コグトレについて理解し、実践に活かすことができますか」という問い合わせに対してすべての教職員が肯定的な回答を行うなど、コグトレの意義や効果について理解しながら実践できるようになった。児童の学力向上につなげるまでには至っていないが、児童のつまずきのポイントを見つけることができるようになった。</p>									
<p><b>【見込まれる成果2】</b></p> <p>○コグトレ等、認知トレーニングなどを通して、自己肯定感や児童の学習に対する意欲が高まる。</p> <p>《検証方法》</p> <p>経年調査において標準化得点が7割未満になる児童の割合を昨年度より減少させる。 児童アンケートの「コグトレの学習は楽しかったですか」という発問に対する肯定的な回答の割合が8割を超える。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>経年調査において標準化得点が7割未満になる児童の割合は6年生7.1⇒7.1、5年生13.6⇒4.8、4年生16.7⇒12.5と昨年度より減少させることができた。このことはコグトレの効果とまでは言い難いがコグトレによって課題が明確となり、習熟度別少人数学習において個に応じた対応ができたことが理由であると考えられる。また「コグトレの学習は楽しかったですか」という問い合わせに対する効果的な回答をする児童の割合は80.2%となった。特に1、2年生ではすべての児童が楽しいと感じており、低学年のうちから継続的に取り組んでいくことで効果が出てくると考えられる。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>○自他のアイデンティティを大切にしながら、多様性を受け入れ、生かし合おうとするグローバルな児童を育成できる。</p> <p>《検証方法》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童アンケートの「友だちの意見を取り入れながら、考えることができますか」という設問に対する肯定的な回答の割合を事前アンケートより上昇させることができる。</li> <li>経年調査の質問紙「自分にはいいところがある」という設問に対する肯定的な回答の割合を昨年度より高める。</li> </ul> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>「友だちの意見を取り入れながら、考えることができますか」という設問に対する肯定的な回答をする児童の割合は4年生94.5%⇒82.4%、5年生72.7%⇒66.6%、6年生57.1%⇒80.0%となり、ICT機器を有効活用して話し合い活動を活発に行なった6年生では大幅に上昇させることができたが、感染症対策により話し合い活動の割合が減ってしまった4、5年生においてはポイントを下げる結果になってしまった。「自分にはいいところがある」という設問に対する肯定的な回答をする児童の割合は4年生88.9%⇒82.4%、5年生68.2%⇒75.0%、6年生57.1%⇒66.7%となりおおむね向上させることができた。</p>									
6 成果・課題									

研究コース

グループ研究A

選定番号

123

代表校園

大阪市立北鶴橋小学校

校園長名

光井 栄雄

6 成果・課題	<b>【見込まれる成果4】</b>
	《検証方法》
	[検証結果と考察]
	<b>【見込まれる成果5】</b>
	《検証方法》
[検証結果と考察]	[検証結果と考察]
	<b>【研究全体を通した成果と課題】</b> 具体的に記載してください。
	<p>「コグトレ」を活用した取り組みは、その効果も含めて研修会を行ったことにより教職員一人一人がしっかりと理解しながら統一して進めることができ、児童の課題についてしっかりと理解することができた。また、その児童理解を踏まえた上での個別対応ができたことにより、一定の成果を上げることができた。一方で「コグトレ」本来の「認知力強化」にまではつなげることができておらず、継続して実践しながら効果的な活用の在り方について考えていく必要がある。</p> <p>独自の資料を作成し、活用したり、地域学習について積極的に取り入れたりすることにより、日本文化も含め様々な国や地域の文化に対して肯定的にとらえられるようになってきている。一方、新型コロナウィルス感染症の終息が見えてこないため、「ICT機器を有効活用した話し合い活動の在り方」についても研究していかなくては、そもそもコミュニケーションの機会が減少してしまうため、コミュニケーションを通して、互いのよさを活かしながら高め合う集団作りは難しいと感じた。</p>
<b>《代表校園長の総評》</b>	
<p>「コグトレ」に関しては核となる教員が外部研修に参加し、伝達実技研修を行ったり、外部講師を招いてその考え方や効果に至るまでしっかりと研修を深めることによって、学校全体として同じ方向を向いて、継続的な学習計画について議論することができていた。その結果、経年調査において標準化得点が7割に満たない児童が大幅に減少するなど一定の成果が得られたことは研究の意義が高かったと推測される。今後も「コグトレ」を取り入れた取り組みを継続してほしい。また、新型コロナウィルス感染症の終息が見えず、コミュニケーションの機会が減ってきていることに対する対策については十分できていないため、他の取り組みの成果が見えてくるようにタブレット端末をうまく活用した話し合い活動についても研究し、成果につながるようにしてほしい。</p>	